

## 審査講評 日本ストックホルム青少年水大賞審査部会長 千賀裕太郎

### 昨年の国際コンペでの実績と今年の応募状況

昨年「日本水大賞」と「青少年研究活動賞」（今回より日本ストックホルム青少年水大賞と改称）をダブル受賞した「沖縄県立宮古農林高等学校環境班」の3名が、2004年8月スウェーデンで開催されたストックホルム青少年水大賞国際コンペに25カ国から参加した代表に混じって参加し、厳しい審査を経て堂々グランプリを受賞するという快挙を成し遂げました。本賞創設からわずか3年目で、アジア初の世界トップを射止めた日本の高校生の水への関心の強さと研究レベルの高さを、改めて確認してください。

さて、昨年の実績の影響もあって、今年は昨年（15件）を上回る全国から21件の応募がありました。いずれも高校生らしい、身近な水環境・水資源を対象とした力作ぞろいの自主研究でした。審査員は、ストックホルム青少年水大賞国際コンペでの連続グランプリを狙って、慎重な審議を行いました。

### 審査経緯：

審査は、水部門の専門家5人からなる審査部会において、ストックホルム青少年水大賞国際コンペ審査基準に従って、厳正に行われました。この基準は、関連性（水環境がかかえる重要な問題に取り組んでいるか）、創造性（問題提起や問題解決の方法、実験・調査やデータ解析の方法に創造性がみられるか等）、方法論（明確な問題意識のもと作業計画が適切であるか等）、テーマに関する知識（既往研究のレビュー、参考文献、適切な情報源、用語の理解）、および実際の技術（生徒自ら測定したか、実験機材・展示事物等の作成を行ったか等）の5項目からなり、審査員がそれぞれの専門的見地から行った審査の結果を持ち寄って慎重に審議して授賞案を選考し、これをもとに日本水大賞委員会において入賞が最終決定されたものです。

### 審査結果：

日本ストックホルム青少年水大賞に輝いたのは、北海道札幌拓北高等学校理科研究部（代表：3年山上佳祐君）の「沼地の富栄養化による植生の遷移とトンボ相の変化―人為的に造られた自然の多様性を維持するために―」です。大都市の新興住宅地に造成された自然において、長期14年間にわたる動植物や水質調査による自然遷移の詳細な実態把握の裏づけのもと、市民への啓発活動を積極的に行って、さらなる都市化による沼地の富栄養化の影響から守って自然の多様性を高める活動を、高校生・市民・行政の協働により作り上げ、着実な成果をあげていることが評価されました。手付かずの自然の保護はもちろん大切ですが、都市化が進んだ国では二次的な自然も貴重な生態系です。ストックホルム青少年水大賞国際コンペにおいても、このような条件にある都市的な地域における自然保護の積極的なあり方を提示すれば、日本代表の連続グランプリ受賞も決して夢ではないと心より期待しております。

審査部会特別賞として埼玉県にある早稲田大学本庄高等学院（代表：3年坂本広樹君）の「鉄バクテリアの作る沈殿物の工業化の可能性」を選びました。市内を流れる赤色をおびた小川の存在に興味を持ち、この川の水を分析してある種のバクテリアが鉄を体に吸着していることを確認しました。こうした微生物を利用した水の除鉄技術はすでに開発され上水道等に利用されていますが、この鉄バクテリアを製鉄の技術に使う、産業廃棄物から低コストで鉄を得る工業技術として発展させることを提唱する、実にユニークな研究です。柔軟かつ実践的な若い発想力を評価して、審査部会特別賞を授与するものです。

本日受賞され皆さんはもちろんのこと、惜しくも受賞にいたらなかった他の高校についても、大変熱心な研究活動を行った生徒の皆さん、そして熱心にご指導された教員の皆様に、審査部会委員一同、心からの敬意を表明して審査講評といたします。